**じゃがりこアレンジ　二重思考**

【共通】

・じゃがりこの歴史

１９９４年に販売していた『じゃがスティック』というお菓子が前身。

じゃがスティックは、ロングタイプのお菓子だった。その改良で四角柱から円柱になり、長さも短くなって、今日の『じゃがりこ』の原型になった。

テスト販売の後、１９９５年10月２３日、ついに新潟での発売を皮切りに、約二年半かけて全国展開した。

初めて発売した味は『サラダ』と『チーズ』。

２０００年に『うすしお』味を発売当初の売り上げは好調だったが、失速。

を発売。一定の人気を得るが、だんだんと売り上げは失速し、２００４年にシリーズ終了。

２００２年に『にくじゃが』や『グラタン』などのキッチンシリーズ、２００３年に『のりしお』、２００４年に『コンソメ』を発売するも定着せず。

２００５年に『じゃがバター』が登場。こちらは大ヒット。

以降、定番ではなく、季節に合わせた期間限定商品を発売する方針に。

２０１１年に発売された『たらこバター』が大ヒットし、定番化。

サラダ、チーズ、じゃがバター、たらこバターが主力となる。

・じゃがりこのコンセプト

１９９２年、女子高生が全世代に与える影響が大きかった時代であり、大人になってからも長く楽しめる商品、という考えからターゲットを女子高生に設定。女子高生がスナック菓子に何を求めるか調べた結果をもとにコンセプトを作成した。

当時のコンセプトアートでは、女子高生がカバンに入れて持ち運びしやすい箱型の包装形態が考案されている。

独特の食感は、社内から「固すぎる」という意見もあったが、開発者は「固さはポイント。おせんべいの文化がある日本ならば受け入れられるはず」と考えていた。

試行錯誤しながら発売したじゃがスティックには折れやすいという弱点があった。

それを克服する為に、長さを調整し、四角柱だったスティックを円柱状にすることで角の違和感を無くし、食べやすさを実現。こうして現在の「じゃがりこ」が生まれた

スティックの長さの変更をきっかけに、包装も当初の箱型からカップ型に改良。カップ型の包装は、中の袋を無くしたことで、1回で簡単に開けることのできる手軽さも強みとなった。

カルビーが当時、Ｆ1のスポンサーだったこともあり、「車のカップホルダーに入るからカップの包装がいい」との経営側の声もあったことも影響した。

じゃがスティックはじゃがりこへとリニューアルした。

以降の商品開発で、『手が汚れにくいこと』が重視されている。

カルビーは、じゃがりこをコミュニケーションツールとしても活用できないかと考え、じゃがりこを人にあげる行為を「あげりこ」と称し、「あげりこ」を気軽に行えるようにパッケージにメッセージを書きやすく余白をつくったり、「じゃがりこ」ロゴを「ありがとう」に変えてしまうなど、人にあげやすいきっかけづくりに注力している。

・じゃがりこの製法過程

1. ジャガイモをスライス
2. 蒸して柔らかくする
3. 裏ごししマッシュポテトを作っていく。
4. 味付け
5. スティック状に成形
6. 熱風で乾燥させる
7. 油で揚げる。
8. 軽くかけ塩をして味を整える
9. カップや袋にじゃがりこを詰めて出来上がり。

工程だけ見れば簡単なように見えますが、独自の製法と手間も時間もかかる商品である。

・公式でじゃがりこを使ったレシピを公開中

『ポテトサラダ』：お弁当のオカズにも使えるポテトサラダ

『じゃがりコロッケ×じゃがチキ』：じゃがりこで作ったコロッケと鶏ささみの料理

『くるくるじゃがりこロールサンド』：じゃがりこから作ったポテトサラダを使ったサンドイッチ

『じゃがりこジャーマンポテトレシピ』：マッシュポテト化したじゃがりこを使ったキャンプ飯

『たらもトースト』：マッシュ化した『たらこバター味』をチーズなどと一緒に乗せて焼いたトースト

『じゃがりこウィンナーパイ』：マッシュポテト化したじゃがりことウィンナーをパイ生地で包んで焼いたもの

『ガリッサクサクじゃがりんとう』：弱火で溶かした砂糖にじゃがりこを絡めて作るおやつ

『フリフリ♪じゃがりこ（納豆味）』：じゃがりこと粉納豆を混ぜたもの

【アレンジ推進派：立論】

・アレンジのレシピがメーカーの方で公開されており、創作料理を推奨している

・アレンジに優れており、美味しいものが多い

・アレンジにより、料理のレパートリーを増やすことができる

・商品の可能性を広げている

【アレンジ否定派：立論】

・公式で紹介しているレシピは料理への利用であって、『アレンジした食べ方』ではない

・レシピ案に関しても、ほとんどがマッシュポテト化するものであり、あくまで別商品の代用である

・手が汚れないお菓子、というじゃがりこの本来の意義を無視している

・ほとんどのレシピがお菓子ではなくなっている。じゃがりこである意味がなくなる

・『あげりこ』ができない

わわわわわわ